

## 『平和を保つということ』(要旨)

聖書箇所：I テサロニケ 5:12-15

## 【1】はじめに

5章 12～15 節の勧めは、テサロニケ教会の一人一人(「兄弟たち」)に向けられたものです。

パウロは、まず、教会に立てられたリーダーたちを重んじるようにとお願いしました(12-13 節)。次に課題を抱えたメンバーへの対応を勧めました(14 節)。そして様々な人たちに対する信仰者の持つべき態度を語りました(15 節)。

こうした勧めを、テサロニケ教会は当事者意識を持って聞いたことでしょう。すなわちパウロのアドバイスを一般論として理解したというよりも、実在の人物との関わりの中で自分に向けられた勧めと理解したのです。それと同時に使徒パウロによってなされたこの勧めは、キリスト教会が目指すべき普遍的な姿を教えるものであり、代々の教会が基準としてきた聖書の教えでした。

## 【2】教会が建て上げられるために必要な事

使徒パウロは、テサロニケ教会のメンバーに、教会のリーダーたちを重んじ、この上ない尊敬を払うよう勧めました。ここで言うリーダーとは、自分がリーダーだと主張する人のことではありません。教会が立てたリーダーのことです(今日的な言い方をすれば、牧師や宣教師、役員や教師たちのことです)。パウロがこうした勧めをした背景には、リーダーたちが委ねられた責任を全うできるよう、その環境を整える必要が生じていたのだと考えられます。パウロのように、キリスト教会の迫害者から使徒に召された人物もいれば、テモテのように幼い日から地域教会の一員として信仰が養われ、召命を受けて牧会者となった者もいました。リーダーといっても様々なリーダーがいました。例えば、みことばを宣教する指導者として立てられた者は、聖書のみことばを教え、指導し、キリスト者を導く働きを神様から委託されます。聴く側が語る者を軽んじる時、聞き手はみことばを聴く機会を逸してしまいます。こうしたことは、教会が本来の使命を果たすことを妨げてしまうのです(参照:同 3:12)。パウロは教会のメンバーに、リーダーとして立てられた人たちを、

「その働きのゆえに」尊敬を払うようにと勧めました。すなわち、その人の持つ「何か」ではなく「その働きのゆえに」と述べたのです。それは「お互いの間に平和を保つ」ことで教会が建て上げられていくからです。

## 【3】具体的な勧め

テサロニケ教会では、不品行の問題と再臨をめぐる混乱が生じていました。パウロはそうしたことを踏まえ、テサロニケ教会の一人一人に以下のように勧めました。

「怠惰な者」を「諭す」ように勧められています。「小心な者」は、やる気を無くした者のことです。彼らを「励ます」よう勧められています。「弱い者」は身体的よりも霊的に知識が乏しくて弱い者のことです。彼らに「強い関心を持つ」(世話をする)ように勧められています。

そして「すべての人」に対して寛容であるようにと言います(参照: I コリ 13:4)。正しいことを主張する時にも「寛容」であることが求められます。さらに「悪に対して悪を返さないように」と言います。教会のメンバーはユダヤ人と異邦人からの攻撃にさらされていたため、そうした中でも報復に走らないようにということでしょう。敵意に対して報復しないだけでなく、友好的に振る舞うようにとも勧められています。

## 【4】おわりに

私たちは「地域教会」に所属し信仰生活を送ります。一つ場所に集まるゆえに様々な課題に直面します。試みの中を通る時に「いつそのこと一人で信仰生活を送った方が充足できるのではないか」という思いが湧く時もありましょう。しかし神様は、欠けのある私たちをキリストのからだなる教会の一員としてくださったのです。お互いが一方通行ではなく「お互いの間に平和を保つ」交わりの中で、キリストのからだなる教会は成長します。

